

最北ねっと

～THE MOTTOMO KITA NET VOL. 109

稚内海上保安部

〒097-0023 稚内市開運2丁目2番1号
TEL・FAX 0162-22-0118 **JCG**
ホームページ
<http://www.kaiho.mlit.go.jp/01kanku/wakkanai/>



危機一髪！エントラ船を曳航救助



曳航作業中

4月16日午後2時20分ころ、巡視船しらかみは、エンジントラブルで漂流中のカンボジア船籍貨物船PRIDENo.7(総トン数496トン 14名乗組み)を曳航救助しました。

同船から「機関故障で航行不能」との救助要請を受けた当保安部は直ちに巡視船しらかみを現場に急行させ、救助に当たらせました。しらかみを出港させてから45分、モニタ映像にてP号を監視していた当保安部職員に緊張が走りました。「毎時1.2海里の速力で南方へ圧流されノシャップ岬に接近している！！」「このままでは乗り揚がる！！」

海難発生時、気象海象とも比較的平穏でしたが、救助要請時には南よりからだった風が急激に北よりに変わり、陸上でも風速15メートル以上の風が連吹。気温も5度も下がり、最悪な天候となりました。

さらに、現場海域は風速約20メートル、波浪5メートルの猛烈な時化となり救助活動が大変困難となっていました。しかし、巡視船しらかみ乗組員の普段からの訓練が実を結び無事同船を稚内港まで曳航し救助に成功しました。

巡視船しらかみは船齢35年。当庁の巡視船の中ではかなりの高齢船ですが、波間に見え隠れしながら太さ60ミリの曳航索を力強く引く巡視船しらかみは、とてもたくましく見えました。

今後も稚内海上保安部は北の守りの要として、職員一丸となって海難救助に臨みます。



曳航されるP号



荒波に浮ぶP号

巡視船れぶん一時帰港～東日本大震災への対応～



4月16日午前10時過ぎ巡視船れぶん(當間 寿(とうま ひさし)船長 乗組員28名)は、東日本大震災対応の派遣先から燃料、食糧の補給及び職員休養のため稚内港に一時帰港しました。

朝靄の中、鈴木稚内海上保安部長、吉田次長ほか職員及び報道関係者に出迎えられ、3月20日に出港して以来約一ヶ月ぶりの母港。入港作業をする職員の機敏な動きに疲れは感じられず、若手職員の凛々しい表情からは現場から何か大きな教訓を学んだように伺えました。

巡視船れぶん張間施門(はりま しもん)業務管理官は鈴木部長に、「主に八戸、石巻、金華山沖合いを中心に行方不明者及び漂流船舶の捜索救助活動を行い、1体のご遺体揚収、7隻の漂流船舶を曳航救助しました。」と報告を行うと共に「被災地付近海域は漂流物が多く、捜索救助活動が困難を極めている」れぶん乗組員は長い派遣生活の中で誰一人不平をもらすことなく、全般に士気は高く、長期にわたる任務を元気にこなしてきた。」と被災地での活動の概要報告を行いました。

巡視船れぶんは燃料、食料を補給、しばしの休養をとった後、再度被災地に向かい救助捜索活動にあたります。日本最北の海の“守護神”が被災地の海上で懸命な活動を繰り広げています。



一時帰港の報告



漂流船の曳航



沖合いの漂流物

☆今月のBESTショット☆



提供: 巡視船しらかみ

巡視船しらかみの傾斜計が40度を振り切りました



提供: 吉田次長

春の芽吹き

ご当地うみまる&うーみんコーナー



第四管区

伊賀忍者